

「IP告知端末の活用方法」

<p>大学 (成果報告書作成者)</p>	<p>会津大学産学イノベーションセンター地域データデザイン学ゼミ 畠准教授 会津大学 地域データデザイン学ゼミ 学部4年 嶋田 純也 会津大学産学イノベーションセンター 五十島准教授</p>
<p>自治体</p>	<p>三島町</p>
<p>その他関係者</p>	
<p>(1)調査研究の課題・背景</p>	<p>三島町において全世帯に設置されているIP告知端末について、次期アップデートに関して最適な通信端末の形式について住民要望のほかに現代の通信技術のメリットなどをまとめた上で、自治体における通信コミュニティについての最適解について考察し自治体への提案とする。</p>
<p>(2)令和5年度調査研究活動内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住民アンケートの実施と可視化 紙、Googleフォームを用いて住民にアンケートを実施。アンケートの結果を単純にグラフ化し、グラフから要望の分析を実施。 2. クラスタ分析 K-Means法を用いてアンケート結果から回答者を分類。分類の結果より、三島町住民アンケートから読み取れる要望の分析を実施 3. ChatGPTで仮想住民を生成して議論を実施 クラスタ分析の結果から生成AIを活用し、仮想住民による仮想議論を実施。住民アンケートだけでは見えてこない、要望・懸念点・懸念点に対する具体的施策などの議論を実施した。 以上の分析の結果から、次世代情報通信端末についての方向性を示す。
<p>(3)令和5年度時点の結果</p>	<p>スマートフォンの効率的な活用が最適であるという結論に至る。 三島町のように高齢化・過疎化が進む地域においてもスマートフォンの導入は可能であると考えられる。ただし、導入に向けた懸念もあり、高齢者など操作に不慣れな方に向けて、サービスは極力シンプル、かつ学習環境の提供等も有効だと考えられる。</p>
<p>(4)提言または今後の展開</p>	<p>住民調査結果についての共有は完了となります。 今回は非常に貴重なデータを取得できたことから、今後より深い解析をしていきたい。 また、より粒度の高い社会実態 (Ground Truth) の調査等を実施したいと考えています。社会調査など現地で対話して調査可能な研究者・ラボの強力をいただきたい。</p>